

令和元年度地域づくり事業実績報告

【新規事業】

団体名	稲沢地区地域づくり委員会	代表者	増子 進
事業名	稲沢・沼野井地区防災組織形成事業	事業費	564,851円
		交付金	564,851円

(1) 地域の現状と課題

- ・稲沢、沼野井地域は、人口が減少し少子高齢化も進んでおり、さらに今後は高齢者のみの世帯の増加も懸念される。
- ・高齢者だけの生活では交流もなく、誰とも会話せずに過ごすこともある。
- ・稲沢、沼野井地域は、平成10年に発生した那須水害で被害に遭った地域であり、水害や地震等の自然災害に対し地域として防災対策に取り組む必要がある。

(2) 事業目的

- ・地域住民の防災意識の向上を図ること。（防災講演、防災マップ）
- ・自然災害の発生時、地域住民が互いに助け合いスムーズに避難できること。（避難訓練）
- ・自然災害の発生時、地域住民が自発的に避難所を開設、運営できること。（避難所設営訓練、炊き出し訓練）
- ・稲沢、沼野井自主防災組織を形成すること。

(3) 事業概要

- ・6/29,7/30 防災講演会（稲沢地区集落センターにおいて）延べ46名参加
 - ・9/18 避難所運営ゲーム（HUG）等（稲沢体育センターにおいて）14名参加
 - ・11/6 災害図上訓練（DIG）（稲沢地区集落センターにおいて）14名参加
 - ・11/17 防災マップ作り検討会（稲沢地区まち歩き）16名参加
 - ・12/18 地区防災計画の検討・策定について（稲沢地区集落センターにおいて）15名参加
 - ・2/10 地区防災計画等の検討（稲沢地区集落センターにおいて）14名参加
- 栃木県の地区防災計画策定促進事業の策定モデル地区として指定を受け、11月1日に「稲沢沼野井自主防災会」を立ち上げ、令和2年3月には「稲沢・沼野井地区防災計画」の策定と「稲沢・沼野井地区防災マップ」を作成し、マップは全戸配布とした。



◆事業の成果や効果◆

栃木県の地区防災計画策定促進事業を活用し、NPO法人栃木県防災士会から講師を招き、防災講演会等により地区住民の防災に対する意識の向上を図った。
 那須水害での被災地域であり、地域の防災力の強化について地域住民の関心が非常に高く、講演会等には、地域づくり委員会をはじめ、自治会長や班長、消防団に加え、小学生や中学生など多くの参加者により、毎回、実践的に学ぶことが出来ていた。地区住民が防災士の資格取得を目標にするなど、地域の防災力向上に向け継続した活動に期待できる。

令和元年度地域づくり事業実績報告

【新規事業】

団体名	那須地域編集部	代表者	増山このみ
事業名	記事制作・寄稿を通じた那須の魅力・情報発信事業	事業費	1,006,226円
		交付金	1,000,000円

(1) 地域の現状と課題

- ・若者が少なく高齢化が進んでおり、高原エリアを除き賑わいもほとんどない。地域間連携が少なく、地域の話題が情報発信されていない。
- ・地域のローカル情報を纏めたインターネット記事が無く地域住民や移住定住希望者への町の訴求ができない。
- ・地域の情報を集約した情報源が無い。
- ・情報発信モラルが低くインターネット上での情報発信ルールを知らない人が多く読み手に意図が伝わりにくい。
- ・情報発信を行う若者が少なく将来を担う人材が不足している。

(2) 事業目的

町内をはじめ、県内外の方に向けた多様な情報発信においては、地域間の垣根を超えるインターネットをメインツールとし情報を定期的に発信していく必要がある。情報発信には質も重要であり若者男女問わず、しっかりと情報を受け取ってもらうための術を身に付ける必要がある。

この事業では、地域の情報発信力（記事作成力）及びモラルの向上から効率的かつ効果的な情報発信を行うための人材育成・記事作成を行い、実際に寄稿も行うことで、記事を通じた地域振興に寄与する。

(3) 事業概要

- ①ライター育成・教育ローカルエディターナイトの開催 7/26,10/18,1/24 (参加延べ人数81名)
現役ライターを講師に招き、初心者向けのテーマで講習会を実施し、多くの地元の方に参加いただいた。講師の実体験を交えた内容で分かりやすく、参加者が積極的に質問をするなど、ライタースキルの向上だけでなく、意見交換や新規ライターの勧誘の場としても有効だった。
- ②活動の告知・ピックアップ記事の配布
活動告知のほか、栃木県の令和元年度輝くとちぎづくり表彰において優秀賞を受賞し、地域活性化に繋がる取組みとして町内外に活動の周知が出来た。町の歴史や自然を紹介する「森の子」を発行した。
- ③先進地研修視察・講習会等の参加 (東京西荻窪「のまど」、秋田県「なんも大学編集部」)
- ④地域の記事制作練習・寄稿
「ナスマッチ」「NaSuMo」等へ講習会で得た知識を生かし計51本の寄稿で町の魅力発信に繋がった。



令和元年度輝く「とちぎ」づくり表彰 表彰式 (令和元年 11月7日:とちぎ協働推進大会にて)



◆事業の成果や効果◆

地域の情報発信力（記事作成力）及びモラルの向上を目的に、ライター育成、教育を行い、効果的な情報発信を行うための人材育成・記事作成により、記事を通じた地域振興に寄与している。職種や年齢が異なる様々な地域ライターが育成されており、今後も継続して地域の魅力発信に期待できる。

令和元年度地域づくり事業実績報告

【新規事業】

団体名	伊王野地区地域づくり委員会	代表者	伊藤 弘
事業名	地域高齢者の居場所作り	事業費	899,895円
		交付金	899,895円

(1) 地域の現状と課題

町全体で高齢化率36%の現状である。地域内においてはコミュニティーはしっかりしているが、少子高齢化の波に飲み込まれてしまうことに危機感があるため、地域で支え合える体制作りが必要である。

(送迎関係、居場所づくり、日常支援、見守り体制づくり等の情報が集まる場所づくり)

(2) 事業目的

地域に住んでいるみんなが「安心して」「健康で」「安全に」住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるようにしたい。隣近所のつながりを大切にし、みんなで支え合う地域を目指したい。(気軽にいつでも集えるサロンづくり)

(3) 事業概要

- ①委員会の開催(3回) 4/27、11/5、2/14 (延べ75名参加)
 拠点場所現地検討及び年度実施計画協議や拠点場所建物内部改装(床張)作業、次年度事業実施計画協議、実施先進地を講師に招いた地区社協との合同研修会などを開催した。
- ②拠点場所建物改装 拠点場所: 那須町大字伊王野1547-3
 ○片付け作業(2回) 7/7、9/15 (延べ39名参加)
 粗大ごみや畳の片付け及び処分を行った。
- 屋内整備(7回) 10/6、11/23、12/21、2/2、2/16、3/8、3/22 (延べ69名参加)
 - ・畳を撤去し合材を張り、50cm角のパズルマットを張った。
 - ・玄関には車いすでも利用可能にするためスロープを設置した。
 - ・天井が黒くくすんでいたため、室内を明るくするため張り替えた。



◆事業の成果や効果◆

地域住民が互いに支え合える体制作りの一つとして、地域内の空き家を活用した「サロン」を地域住民自らの手で作ることで、地域コミュニティがより活性化され、団結力も強固なものとなっている。

サロン実施先進地の取り組み状況についても地域で学んでおり、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるための地域の特色に合った「地域サロン」運営に期待ができる。

令和元年度地域づくり事業実績報告

【平成30年度～2年目】

団体名	芦野地区地方創生協議会	代表者	白井伸雄
事業名	芦野根古屋地区景観整備事業（武家屋敷）	事業費	520,126円
		交付金	500,000円

（１）地域の現状と課題

芦野地区は城下町、宿場町でもあり、那須町で唯一江戸時代の面影が残る地であるが、現在高齢化が進み、特に根古屋地区には、江戸時代芦野家家臣団の屋敷があったが、現在子孫は芦野を離れ、敷地や屋敷は放置され、荒れ果て往時の面影はない。

後継者不足によって、保全・継承も困難となり地域内外の交流も減少しているなか、交流人口の増加を図るためには、この地域を観光地・芦野を代表すべきエリアとして存続させ、これまでの名所旧跡に加え、新たな歴史と文化の空間を作る必要がある。

（２）事業目的

根古屋地区芦野家家臣の屋敷跡は景観が偲ばれる数少ない空間であり、これらの空間を磨き上げ、集客効果の上昇や郷土愛の醸成を図ることを目的とする。更に、屋敷跡周辺の御殿山を中心として散策コースを魅力的な景観へと導くことで観光客の滞在時間を延伸し、地区内の商業活動への波及効果を図る。

（３）事業概要

①委員会の開催（3回） 6/5、7/3、8/3（延べ27名参加）

事業説明及び事業計画の確認、園地整備計画の概要協議を行った。

②屋敷跡地の整備と生垣の形成事業

子孫は芦野を離れ、敷地や屋敷が放置され荒れ果てている江戸時代の武家屋敷跡地を整備し、空間の磨き上げを行った。

○景観に支障となる樹木等の除去と除草作業（9回）4/28、5/28、6/15、7/24～26、8/3、9/10、2/13

①遊歩道沿いや那須歴史探訪館付近の桜の枝払いや除草作業を実施した。

②平成30年度に整備した遊歩道（新町～根古屋の敷石設置）の管理を行った。（参加延べ人数32名）

○園地整備（4回）2/14～17（参加延べ人数8名）武家屋敷内の池を改修し、水辺を好む植物を植栽した。

○植栽作業（1回）3/12 寒椿100本、枝垂れ桜5本、水仙の植栽を実施し武家屋敷の再現を目指した。（参加9名）

○車止めブロック設置作業（1回）3/16 御殿山駐車場に車止めブロック17台分を設置した。（参加3名）

③活動内容について、既存ホームページ（もうひとつの那須 芦野）上で周知、PRを随時実施した。



◆事業の成果や効果◆

根古屋地区の放置され荒れ果て往時の面影がなくなってしまった芦野家家臣の屋敷跡地と生垣の整備を行うことにより、江戸時代の城下町や宿場町の活気あふれる街並みを偲ぶ空間形成となり、地域住民の郷土愛の醸成が図られている。更には景観整備により交流人口の増加や商業活動への波及効果が期待できる。

令和元年度地域づくり事業実績報告

【平成30年度～2年目】

団体名	黒田原放送協会	代表者	山崎雅人
事業名	インターネットラジオ放送局「だっばラジオ」を活用した那須町の魅力発信事業	事業費	580,000円
		交付金	500,000円

(1) 地域の現状と課題

那須町には年間500万人もの観光客が訪れているが、那須町民の「生の声」を知ることが出来るインターネット上の情報インフラが整っていない状況であり、リアルタイムでの地元からの発信が少ないことに気づいた。また、インターネット上での地元向けの情報発信や地元住民が楽しめるコンテンツも少ない。これらのことから、観光客や町外者に対する多様な情報発信、地域の方に対するコンテンツ発信不足を解消するために活動を行う。

(2) 事業目的

- ・観光客や町外、県外の方への多様な情報発信を行い那須町の知名度向上と魅力発信、地域のファンを獲得する。
- ・地域間の垣根を超えるインターネットをツールとし、幅広い年代の地域住民がパーソナリティーを務めることにより生まれる独自の目線や感性、情報を定期的に発信することで地元愛の醸成とにぎわいの創出を図る。

(3) 事業概要

- ①ラジオ番組告知宣伝（場所：黒田原インターネット放送局 だっばラジオ）
 - ・チャンネル登録数は550人（前年比151%）を突破し、視聴回数も累計100,000回を超えた。
 - ・栃木県の令和元年度輝くとちぎづくり表彰において優秀賞を受賞したことにより、CRT栃木放送や福島テレビ番組出演など、町外への宣伝告知が出来た。また、町広報紙においてパーソナリティー募集も行った。
- ②ラジオ番組の強化
 - ・町内の「農」をテーマに「食に関するコミュニティー番組」を新設し、新たなリスナー流入を得られた。
 - ・放送機材の強化と撮影用資材を購入することで、番組の質が向上した。
- ③地域との連携強化
 - ・町主催イベントなどへラジオ体験ブースの出展や開局4周年を記念したイベントを実施した。
- ④だっばラジオオリジナル体操「だっばラジオ体操」を制作した。



令和元年度輝く「とちぎ」づくり表彰 表彰式（令和元年 11月7日：とちぎ協働推進大会にて）

◆事業の成果や効果◆

だっばラジオはミニFMであるため、放送媒体はYouTubeでの生放送がメインであるが、多くの方に町の魅力を伝えるために、様々なターゲットに向けた日替わりパーソナリティーによる楽しい番組制作に向け工夫を行っており、リスナーが増加している。ラジオで紹介した場所やお店などに県内外からファンが訪れており、交流人口の増加にも更に期待ができる。

令和元年度地域づくり事業実績報告

【平成30年度～2年目】

団体名	夕狩ビオネットコミュニティ	代表者	野田航平
事業名	夕狩地区の自然を活用した地域の環境教育推進事業	事業費	508,299円
		交付金	412,500円

(1) 地域の現状と課題

森林ノ牧場のある夕狩地域には豊かな自然があり、環境教育に適した地域であるが、自然の価値や魅力を伝える機会や人材が充分ではない。この地域の価値を掘り起こすためには、地域の自然の中に入り込み調査や観察が必要だが、その機会はまだ少なく、継続的な活動を行うための地域の環境に精通する人材育成がされていないため、自然について学ぶ場を提供し環境教育を実践できる人材を育成する必要がある。

(2) 事業目的

- ・自然の価値や魅力を伝える人材を育成し、地域の魅力を掘り起し郷土愛の醸成を図る。
- ・当たり前にある自然や文化を学びの場として提供することで、気づかなかった地域の価値を地域が主体となり掘り起こす。
- ・夕狩地区の自然を解説し、理解を深めることで集客に繋がり交流人口増加を図る。
- ・恵まれた自然を活用し環境教育の推進を図る。

(3) 事業概要

- ①バタフライガーデンづくり&ぼくらのピオトープ池観察会 6/23 (19名参加)
蝶や蜂が集まる餌場や観察の場をつくり、生き物の生活を身近に感じられるようになった。
- ②夏の生き物調査隊 8/3 (12名参加)
身近な自然を知り、触れることで自然への興味が湧いてより深い知識を得ることが出来た。また、観察会や工作を通して子どもたちの夏休み課題プログラムとなり、参加家族同士などの交流も生まれた。
- ③落ち葉の生き物マンションづくり&ぼくらのピオトープ池観察会 11/17 (8名参加)
ピオトープが増えたことにより、生き物の生活がより身近に感じられるようになった。
- ④野鳥観察会&巣箱・バードフィーダー(牛乳パックのえさ台)づくり 3/22 (12名参加)
鳥の観察に加え、羽の色形や鳴き方の意味など幅広く知ることが出来た。
巣箱やバードフィーダーを家庭に持ち帰ることで地域の鳥の生活をより身近に感じることが出来た。



◆事業の成果や効果◆

夕狩地区の豊かな自然を用いての事業開催により、地域の魅力の掘り起こしと地域の価値の高さを理解することができ郷土愛の醸成に繋がっている。
学びの森小学校との連携も図られ、幼少期における環境教育により当たり前と思われている自然や文化について学ぶことで、環境教育を実践できる人材育成にも期待ができる。

令和元年度地域づくり事業実績報告

【平成30年度～2年目】

団体名	那須高原クロスロード振興会	代表者	北牧修平
事業名	高齢者の生きがいつくりとお出かけ支援事業	事業費	498,593円
		交付金	448,593円

(1) 地域の現状と課題

当地区のある那須町北部エリアは、高齢化、過疎化が進み、高齢者の健康維持及び地域コミュニティの希薄化が課題になっている。高齢者の健康維持には、「お出かけ」が重要であり、高齢者の生きがいつくりにも大きく寄与する。しかし、「お出かけ」したくてもできない人がいる現状もあり、健康増進及び生きがいつくりという高齢者のニーズに適合した「お出かけ」支援が必要である。

(2) 事業目的

高齢者のお出かけ支援のニーズ調査の上、そのニーズを満たすために住民が主体となった助け合いによるお出かけ支援事業を展開し、高齢者の健康増進と生きがいつくりを醸成する。
また、事業を通じて世代間の交流を図り、地域住民の郷土愛を醸成する。

(3) 事業概要

- ①地域住民との経路や運行方法についての検討会 4/15,5/8,6/12,7/17 (延べ参加者28名)
- ②温泉とランチのお出かけ会の実施 5/23 (14名参加)
- ③試験運行(1) 8/19 黒磯ルート 8/26 黒田原・芦野ルート
那須高原クロスロード振興会メンバーと検討会参加者有志で試験運行を実施した。
12月～1月試験運行企画を逃室、夕狩地区650世帯に全戸配布した。
- ④試験運行(2)
12/3 黒磯ルート、12/13白河ルート、12/16黒田原・芦野ルート、1/10 白河ルート、
1/20黒磯・芦野ルート、1/28黒磯ルート (延べ参加者27名)
- ⑤試験運行と平行して事業化に向け、有識者との検討会の実施 12/19,1/12
- ⑥お出かけについての学習会と事業報告会の実施 3/15 (参加13名)



(平成30年度の様子)



(下野新聞掲載写真)

◆事業の成果や効果◆

町北部エリアにおいて高齢者のお出かけ支援の必要性について地域住民アンケートを実施してニーズ把握を行い、地域住民が主体となった助け合いによる生きがいつくりの仕組みづくりに向け活動しており、地域住民が運転免許証の返納後も安心して生活できる環境づくりに期待できる。

令和元年度地域づくり事業実績報告

【平成29年度～3年目】

団体名	だっばら駅前マルシェ	代表者	渡辺陽一
事業名	だっばら駅前マルシェ	事業費	567,757円
		交付金	500,000円

(1) 地域の現状と課題

かつての黒田原駅前地区は、町の中心地として賑わっていたが、現在の駅前通りには営業している店舗がほとんどなく、シャッター通りとなって永い年月が経過してきた。また、農業を筆頭に観光商工業も衰退の一途を進み、担い手の減少や高齢化が進んでいる。

農商工連携が遅れていることと農畜産物や商工業は零細事業者が多いため、広報や情報発信が貧弱なことが課題である。

(2) 事業目的

那須町の中心地区である黒田原に若い人に足を運んでもらい定住してもらうことを目的とする。ダサいだっばら黒田原をお洒落な住みたい街（自由が丘や二子玉と呼ばれるようなお洒落な街）にする。

お洒落な街や事業者育成/お洒落に触れる機会づくりの提供/町の物産品を町外、県外、国外へのPRと町の農商工業者の交流の場を提供/おしゃれな街「黒田原」の全国発信

(3) 事業概要

ナイトタイムエコノミーを那須から発信する為に、毎月プレミアムフライデーの夕方にマルシェを開催し那須町外、県外、国外から集客し那須町の活性化を図った。また、お洒落な人や事業者の育成に繋げるワークショップを行った。

○だっばら駅前マルシェの開催

開催日：6月～9月の月末金曜日夕方から開催（来場者延べ人数1,270人）

場 所：黒田原駅前のカフェ、空き地

出店者：町内及び町外のお洒落に特化した飲食店やクラフトショップなど

出店延べ数 49店舗（うち町内事業者32店舗）

○お洒落な人、事業者ワークショップ

7月27日（土）10：00～17：00 （参加者） 30名



◆事業の成果や効果◆

マルシェを通して黒田原地区がお洒落な若者やお洒落なものを求める人たち、お洒落なアート作品などの交流の場となり、新たな交流人口の増加に繋がっている。また、SNSでの情報発信や各種メディア掲載により県外での知名度も上がり、宿泊を伴う遠方からの誘客も図られている。

地域や地域外の人々と多様に関わる関係人口を増加させ、黒田原地区をお洒落で素敵なまちづくりに向け継続した活動を期待する。

令和元年度地域づくり事業実績報告

【平成29年度～3年目】

団体名	黒田原夏まつり実行委員会	代表者	大島寛樹
事業名	黒田原夏まつり	事業費	1,336,744円
		交付金	500,000円

(1) 地域の現状と課題

黒田原地区は那須町役場、JR黒田原駅がある那須町の中心部である。特に駅前は、かつて商店が立ち並び多くの人が行き交う賑やかな場所であったが、現在は地方経済の衰退、少子高齢化による人口減少、若者の流出や後継者不足等により商店街、事業所の衰退を招いている。いかに一人ひとりが黒田原に誇りと愛着をもつことができるか、若者に伝統を継承していけるかが今後の課題である。高校生などの若い人たちに当日の祭り参加だけでなく、計画段階から取り組んでもらうことで、より地域への興味を持たせる必要がある。

(2) 事業目的

- ・古き良きお祭りを再現することで、黒田原地区住民のコミュニティを図ること。
- ・祭を開催することで黒田原の活性化を図ること。
- ・同時開催される八雲神社のお神輿と連携することで、伝統文化を体現し黒田原地区の魅力を掘り起こすこと。
- ・若い人に参加を促し伝統文化の継承と若者の定住化促進に繋げること。

(3) 事業概要

黒田原夏まつりの開催（開催日：7月27日（土）黒田原駅前通りにおいて）

入込数：2,000人 出店者数 30店舗

- ・黒田原駅前通りに提灯等の飾り付けを行い祭りを盛り上げることが出来た。
- ・八雲神社お神輿には、黒田原地区の事業者等が参加し一体感が得られた。
- ・黒田原まちづくり推進協議会に毎月出席し、地域コミュニティの活性化のための意識向上を図った。
- ・栃木県地域活性化応援事業（専門家派遣事業）を活用し、今後の継続した取組みにヒントを得ることが出来た。



(平成30年度の様子)

◆事業の成果や効果◆

古き良き黒田原の祭りを再現することにより、黒田原地区の子どもたちへ伝統文化の継承の機会となり、地域活性化に繋がっている。また、栃木県の事業を活用し、黒田原の商店街の地域活性化に向け専門家からの助言指導を受け、広い視点で黒田原地区の活性化について定期的に検討しており、今後も継続した活動に期待できる。

令和元年度地域づくり事業実績報告

【平成29年度～3年目】

団体名	那須高原作家協会	代表者	瀧 昭典
事業名	那須高原芸術祭	事業費	600,930円
		交付金	500,000円

(1) 地域の現状と課題

那須町は東西南北に広がり、地域により観光、農業など、同じ町においても産業が異なっている。また、住民も昔からの住民と首都圏からの移住者数が同数となっており、意識や考え方に様々な考え方があると感じる。

考え方は様々であっても豊かな自然と素晴らしい環境の那須町を日本、世界にアピールするために、文化程度の高いロイヤルリゾートを軸と考え、那須の魅力に引き付けられた仲間とアートを中心にして活性化させるための活動が必要であるとする。

3年目を迎え、交通の便が良く多くの方が気軽に参加できるよう「サッポロビール森のビール園」の協力により、絵画芸術だけでなく、音楽、食、舞踏、文学など多方面との協力によりロイヤルリゾートにふさわしい活動から町の活性化に協力したい。

(2) 事業目的

地域で活動している団体や個人に協力を得ながら、町民をはじめ観光客に那須の芸術文化やアートの素晴らしさ、楽しさ、魅力を感じてもらおう機会を提供する。

(3) 事業概要

○那須高原芸術祭

日時：令和元年6月2日（日）～6月16日（日）15日間

場所：サッポロビール那須森のビール園及び前庭、バンケットルーム

内容：芸術祭開催期間中の土日には演奏会や地元スイーツ関係者によるマルシェ、子どもたちにも喜んでもらえるよう人形劇の開催など、芸術に親しみやすい雰囲気作りを行った。

入場者数：3,500人（期間中の延べ人数）

○那須町立学びの森小学校との連携事業（7月～9月）

校庭内のウサギ小屋をギャラリーに改装するためデザイン作業や展示品作成指導を行い、美術教育として学校や子どもたち、保護者と直接触れ合うことが出来た。



◆事業の成果や効果◆

地域で活動している団体や個人と協働した芸術祭の開催により、那須町在住アーティストの活躍の場や活動のPRに繋がり仕事づくりへの機会となった。また、地元小学校との連携事業により、学校敷地内のウサギ小屋をギャラリーに改装するなど、子どもたちが芸術文化に身近に触れられる機会が図られた。芸術文化によるまちづくりに向け、今後も継続した活動に期待する。

令和元年度地域づくり事業実績報告

【平成29年度～3年目】

団体名	高久地区地域づくり委員会	代表者	相馬和至
事業名	高久地区歴史めぐりと自然散策事業	事業費	441,037円
		交付金	441,037円

(1) 地域の現状と課題

高久地区には多くの史跡があり、里山・田畑などの自然も豊かな地区である。しかし、近年少子高齢化が進み、地域の各種イベントなどへの参加者も減少傾向にある。そのため、安全・安心な地域づくりは不可欠であり、希薄になりつつある地域住民間の交流・コミュニケーションの醸成が課題となっている。

(2) 事業目的

地域内の史跡と里山・田畑を活用した歴史めぐりと自然散策順路を整備し、散策会を実施する。地域の歴史や草花・野鳥などについて講師の指導による歴史めぐり、自然散策会に参加させることで地域への誇りと郷土愛の醸成を図る。また、休耕田を活用したもち米の栽培を地域住民と学童で行い触れ合う機会をつくることにより、希薄になりつつある地域住民の関係を改善する。更には、子どもから大人まで住民間の交流・コミュニケーションを活発化することで、地域全体の安全・安心の質の向上を図り、住み良い地域づくりに貢献する。

(3) 事業概要

- ① 観察順路の整備 7/28,8/24,11/4,11/9,11/17,12/5,2/29,3/7 計8回 (延べ58名参加)
イベント参加者の安全確保のため、散策路の整備や田んぼ周辺の草刈り作業を実施した。
- ② 歴史めぐりと自然観察、生き物観察会の実施 8/25,11/8 計2回 (高久小3年生、地域住民等が参加)
歴史的な史跡や草花・野鳥・川辺の生き物などを学ぶ歴史めぐりと自然散策等の観察会を実施した。
- ③ もち米、古代米の栽培 5/26,10/21,11/23 計3回 (高久小全学童、保護者、高齢者等延べ425名参加)
高久小学校の全学童と教師、保護者と一緒に田植えや稲刈り作業を行い、餅つき大会(もち米90kg)やバザー用(古代米45kg)として子ども育成会へもち米、古代米を提供した。
・高久小全学童、保護者、地域づくり委員会など多くの地域住民等の参加が得られ、地域の豊かな自然を五感で感じながら、参加者の郷土愛と地域住民のコミュニケーションの醸成が図られた。



◆事業の成果や効果◆

地域内の史跡と里山・田畑を活用した歴史めぐりと自然散策ができる順路整備を行い、歴史めぐりや自然散策会を開催することで、地域への誇りと郷土愛の醸成が図られている。また、休耕田を活用したもち米の栽培を地域住民と学校、育成会が連携して行うことにより、子どもから大人までの住民間の交流がなされ、住み良い地域づくりに期待できる。